

秋の褒章に、府内から12人が選ばれた。3日に発令される。

磯部 治	75	大阪府	（鍼灸マッサージ業）
白居 季生	65	大阪府	（フラワー装飾師）
小野 陽太郎	70	大阪府	（造園工）
木野 正男	70	大阪府	（農業）
山岡 祥二	65	大阪府	（金属プレス製品製造業）
西村 いづこ	64	大阪府	（植物細胞生物学研究）
野田 進	54	大阪府	（光子電子工学研究）
大槻 隆彦	76	大阪府	（更生保護）
岡村 倫子	70	大阪府	（調停委員）
奥田 俊夫	51	大阪府	（消防）
曾根 翼則	75	大阪府	（更生保護）
中西 義明	75	大阪府	（同）

カッコ内は受章の理由となった活動分野、業績。数字は発令日現在の年齢。敬称略。氏名は朝日新聞の字体で表記。

秋の褒章 府内から12人

光操る「フォトニック結晶」

紫綬 野田 進さん



紫綬褒章を受章した野田進さん＝西京区の京都大桂キャンパス

光を自由自在に操れる「フォトニック結晶」の研究をリードする。太陽光発電の能力を現在の2倍超に高める技術にも応用した。

若い頃からラジオの仕組みに興味を持ち、カラーテレビの普及期に小学生時代を過ごした。電子工学を学ぼうと京都大に進んだ。

大学院修了後は企業でレーザー研究に従事。好景気の1980年代後半、研究開発費は潤沢だった。同年代の優秀な仲間にも恵まれ、誰かが論文を出すと負けてなるかと研究に没頭した。

恩師の誘いで大学に戻った

が、当時研究費は企業と比べ限られていたという。「産業界ではできない、もっと夢のあるテーマをやらう」。そう決めて取り組んだ研究の成果が、世界中から大きな注目を集めている。「周りから『やれっこない』と言われるほどに燃えましたね。反骨精神でしょうか」と言って笑う。

フォトニック結晶は、通信や製品加工など幅広い場面の応用が期待されている。「ありとあらゆる分野で使われている光。その可能性を広げること、世界をよりよくしたいのです」（佐藤剛志）